



最高学年から学ぶこと

学校長 村越 新

令和7年度も残りわずか。卒業式も近づいてきています。6年生は卒業式の練習を先週から始めました。また、校長との会談もすべてが終わりました。

その会談の際、全員にアンケート用紙を渡しました。答えられるものだけに回答し、提出は任意のものであります。それにも関わらず、校長室のドアに貼っておいた封筒には、連日回答の紙が入っていました。現在までに109人の子が提出してくれています。とても嬉しく、感激しています。

さて、このアンケート用紙の中に「中学校に行っても学び合い中心で学習を進めたいですか」の質問があります。その結果をお伝えします。



「はい」 96.3% (105人)

- ・ 友達の意見が聞けるから 29人
- ・ よく分かるから 24人
- ・ 学習が楽しくなるから 22人
- ・ 人間関係が良くなるから 10人
- ・ コミュニケーション能力が高まるから 10人
- ・ 考えを共有できるから 8人
- ・ 自分の意見が言えるから 6人
- ・ 自分の考えが高まる（広まる）から 6人
- ・ 友達に教えてもらえるから 5人
- ・ 友達に教えたいから 5人 など

自由記述なので、文中のキーワードとして数えました

いいえ 3.4% (4人)

- ・ 兄（姉）が「時間をもったいない」と言っていた・・・
- ・ 話の流れが早いのでついていけないから
- ・ 楽しいけど、勉強に置いて行かれていると感じるから
- ・ 関係ない話をしてしまうから

肯定的な意見がこれほど多いことには驚いています。また、否定的な意見の中にも大事なポイントもあると感じています。学習を進める上で大事なことを、肯定派からも否定派からも教えてもらった気がします。

ついでながら、「**憧れている大人は誰ですか**」という質問もアンケート用紙にありましたので、上位を紹介します。

1位	親	34人（「父」、「母」、「両親」）
2位	扇小の先生	23人（10人を越える名前が挙がりました）
3位	スポーツ選手	11人（野球、サッカー、バスケットボール）
4位	歌手	10人（バンド、ダンスグループ、ソロシンガー）
5位	近くの大人	4人（習い事のコーチ、キャプテン、先生）
	その他	（YouTuber、マンガ家、俳優、タレント、偉人、キャラクター）

齋藤孝氏が以前、雑誌「致知」での対談で語っていたことを思い出しました。

僕は「憧れに憧れる」ことが教育の原理だと思っています。例えば吉田松陰が「この日本を何とかしたい」という憧れを持つ。すると高杉晋作がその憧れに憧れる。

いまで言えば、子供がイチローに憧れて野球を始めたくなくなるというように、憧れに憧れることがスイッチをオンすることに繋がるのではないかなど。その関係をどうやってつくるかが教育の一つの大きな課題だと思います。

一番近くにいる家族や、日々学んでいる学校に「憧れている大人」がいるというのは、その子にとって非常に幸せなことだと思います。子供たちがスイッチをオンできるように、私たち大人も憧れられるようにいたいものだと考えました。

つたわる言葉

『**発達障害の子どもに伝えることば**』（川崎聡大、SB新書 2024.10）を読みました。その中で、子供に何かを**伝えるために**大人が最低限知っておかなくてはいけないことを再認識したので、紹介させていただきます。

◆コミュニケーションは相互交渉であって、うまくいかない状況があれば、伝える側、受け取る側、**場面すべてに改善の余地**がある

◆「注意」の働きとは、さまざまな刺激に対して**意識を向けたり切り替えたりする**プロセス、すべての認知活動の土台

◆わかる言葉がけ

- 1 大事な物事ほど、**簡単に分かりやすく**話す
- 2 その場の**流れ**を逃さない
- 3 **具体的に**望ましい行動を示す